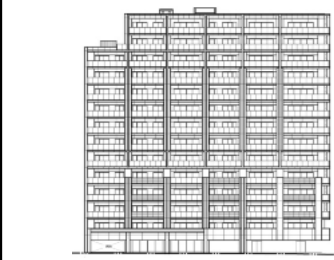


CASBEE[®]さいたま2016年版 | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版

■使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.1.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)レーベン北浦和新築工事	階数	地上14F
建設地	さいたま市浦和区常盤5丁目81番9	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	395人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年2月 予定	評価の実施日	2017年6月30日
敷地面積	1,793 m ²	作成者	株式会社デベロップデザイン
建築面積	865 m ²	確認日	-
延床面積	8,511 m ²	確認者	株式会社デベロップデザイン



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.0

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
北浦駅にほど近い利便性の高い都市部に立地しており、敷地北側の幹線道路から、見渡せる敷地条件である為、周辺環境に合致した新たなランドマークとなる施設となよう計画した。また、良好な住居環境を提供する為に音環境や将来の改修に主眼をおき、地球温暖化や水資源確保など地球環境に配慮した計画となるようにした。		建設工事において発生する廃棄物は徹底して分別を行い、資源のリサイクル化に努める。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
外皮性能は住宅性能評価基準5-1の等級4を取得できるように、断熱材および開口部の仕様で配慮した。また、建物に使用する建築材料を全面的にF☆☆☆☆とした。	住宅部分の天井高さや階高を余裕のある寸法とすることで、良好な住宅環境の確保と将来にわたる改修のしやすさを考慮した。また、節水型器具の使用等によりランニングコストを抑えた計画となるように配慮した。	敷地北側の幹線道路からの景観に配慮し、新たな地域のランドマークとなるようなデザインを掛けた。可能な限り植栽帯を設置し、地域環境と地球環境に貢献できる計画とした。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
各設備機器毎に取扱説明書を手渡し、使用機器の理解度の向上を図ることとした。住戸窓は空気層6ミリの複層ガラスとし、熱負荷低減に配慮した。	ODP=0の冷媒や、ODP=0.01未満の断熱材の使用により地球温暖化対策を講じ、節水器具の使用等により節水を行い、地域の水資源の確保に努める。	敷地内に屋内型のごみ置場を設置し、多種別可能なストックスペースを確保し廃棄物処理負荷抑制に努める。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される